

ひょうご

420

MIN-IREN

2024.11.12

合併号



医療・介護・福祉に予算を増やせ 「大軍拡、社会保障削減に声を上げたい」 「いのちまもる」9.26総行動

兵庫から19名参加

医療・介護・福祉に予算を増やせ「いのちまもる」9.26総行動が9月26日(木)、東京・日比谷野外音楽堂で開催され2,400人参加、200ヵ所でWEB視聴されました。兵庫民医連から19名が参加し「従来の保険証残せ」「医師・看護師・介護職・保育士増やせ」「賃金大幅に増やせ」「憲法改悪反対」等訴え、銀座をパレードしました。

「大軍拡、社会保障削減の今の政治とマスコミの異常悪化がたまらず、声を上げたいと総行動に参加した」「在宅業務を担当するようになり、もっとサービスを受けるべき人がいると感じる。少しでも改善する足がかりができればと思った」「全国から大勢の参加者が集まり元気が出る集会だった。もっと諸外国のように意思表示をしないと」など、現地参加の感想が



寄せられました。

総行動に連帯し兵庫県内では神戸市元町で「神戸共同行動」が呼びかけられ、街頭宣伝を展開。姫路市では9月28日(土)街頭宣伝が実施されました。

事業所・職場紹介

輝いています！

「やっぱり家がええわー」 の声をささえ続けたい

社会福祉法人駒どり ヘルパーステーションおおぞら須磨 駒どり巡回サービス須磨南 所長 徳山 聡美

菅原道真公を慕って飛んだ梅は無事に太宰府に着いたけれど、同じく道真公を慕って飛んだ松が、重くて神戸に落ちてしまい、それが「飛松町」。太宰府に左遷される途中、須磨に立ち寄った時、村人たちが粗末な板で仮の宿を作ったので「板宿」。そんな言い伝えのある神戸市の真ん中あたり、須磨区南部にある板宿駅近くの「飛松町」に事業所があります。

隣接する長田区にある、同法人のあんしんすこやかセンター、デイサービス、居宅と連携しながら「住み慣れた地域で

安心して暮らせる」ように、訪問介護事業所「ヘルパーステーションおおぞら須磨」を18年前に開設。2019年に定期巡回の事業所「駒どり巡回サービス須磨南」を開設しました。

それぞれの事業所の特性を生かし、ご本人の想いに寄り添い、在宅介護職としての視点を生かして「24時間見守ることのできる定期巡回と指定訪問のいいとこどり」ができる事業所をモットーにしています。

「独り暮らしで退院できないと言われたけど、やっぱり家に帰りたい」「急に入院したので、1回は家に帰らせてあげたいけど、家族が介護できるか心配」「薬を飲み忘れて血圧が安定しない。いつまで独り暮らしができるか心配」。生活を送っていると、色々な事情が出てきます。

どんな時でも、自分で住む場所を選ぶことができ、自分の好きな場所で過ごせる自由がある。その選んだ場所が、「家」



というなら、日々変化する揺れる思いに寄り添いながらも、在宅介護者として、多職種と連携をとり本人・家族・医療・看護「在宅応援チーム」の一員となる「応援団」であり続けたいと思っています。

自分の家には匂いがあり、生活の音があり、くらしの香りがある。落ち着く空間で過ごせる。「やっぱり家がええわー」。この言葉を聞いたときに、「この仕事をしていてよかった」と思いながら、また明日もみんなで頑張ります。



事業所の窓から～歴史と地域紹介～

社会福祉法人駒どり

デイサービスセンターいたやどの歴史

17

法人事業所の連携で
いつまでも安心して暮らせるように

デイサービスセンターいたやどは1998(平成10)年2月10日に、社会福祉法人駒どりの最初の事業所として開設され26年が経過しています。

事業所周辺は、長田区高取山の麓に位置しており、デイサービスセンターいたやどあたりから急な坂が多くなる地域になります。「板宿」は須磨区の名称ですが後述します神戸医療生活協同組合の板宿診療所が長田区庄山町に移転してきて、このエリアを私たちは「板宿」と通称として使っています。



▲神戸医療生協 板宿診療所 (板宿駅前)

今の建物は神戸医療生協の生協会館である「いたやど会館」を、社会福祉法人設立とデイサービスを開始するために土地・建物を寄付していただき、社会福祉法人駒どりとしての事業が始まりました。地域的には神戸医療生協の板宿診療所をつくりあげた組合員さんが、「板宿診療所」を支え「板宿病院建設」での赤れんが増資活動や、「いたやど会館建設」など組合員さんの取り組みが活発に行われてきた歴史のある地域です。

▲デイサービスセンターいたやど説明会
1997年9月

同じ建物内に、2000年4月居宅介護支援事業所であるデイサービスセンターいたやどが開設され、介護支援専門員2名ケアプラン数76件でスタートしました。

また、2006年4月介護保険制度改正に伴い、地域包



▲神戸医療生協 板宿病院といたやど会館

括支援センターを受託。駒どりあんしんすこやかセンター(現西代あんしんすこやかセンター)として保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員、見守り推進員(現地域支え合い推進員)を配置し事業開始されました。

現在デイサービス、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターの利用者数は開設当初に比べて増加し、職員数も増えました。さらに、地域包括支援センターには日々様々な総合相談が入り対応させていただいています。

デイサービスセンターいたやどの向かい側にはいたやどクリニックがあり、いたやどクリニックの2階にはショートステイ赤れんががあります。さらに、いたやどクリニックの隣には、「ふれあい薬局いたやど」と「いたやど歯科」があります。

高齢者支援を行うにあたり、それぞれの事業所が連携を取り合っています。このような事業所が身近に存在していることが、大きな強みになっていると感じています。これからも医療、介護の連携を強め、無差別平等の地域包括ケアシステムを構築できるよう取り組んでいきたいです。

▲デイサービスセンターいたやど
(いたやど会館改修後)

▲現在のデイサービスセンターいたやど

兵庫民医連第53期定期総会 開催報告

9月22日(祝・日)、第53期定期総会が開催されました。終日での集合開催は実に6年ぶりで、全体会報告と分散会交流での参画型の総会となりました。

大澤芳清会長があいさつを行い「兵庫民医連内の事業所の経営はとても厳しい状況にあります。私たちは、何のために事業をしているのかを改めて考えることが必要です。地域の声に耳を傾け、この地域で私たちが担うべき役割が何かのご検討をお願いいたします。(中略)私たち兵庫民医連は全ての戦争政策に反対しています。私たちは、戦争の準備ではなく平和の準備を、命と暮らしを守る政策への転換を政府に求めています。(中略)選挙での投票は、私たちが直接政治に自分の思いを表明できる大切な権利です。国や兵庫県の政策を変えるために、みなさまが投票に行くだけでなく、職場や地域のなかまにも投票に行くよう呼びかけましょう」と述べました。

全体会では、第1号議案(運動方針案)、第2号議案(決算)会計監査報告、第3号議案(予算提案)、第4号議案(加盟・脱退承認に関する提案)、第5号議案(評議員承認に関する件)、第6号議案(兵庫民医連第7次中長期方針案)の提案報告を行いました。

午後の分散会では、代議員と理事が15グループに分かれて話し合い、「手の空いた人が大変なところを手伝うような全員で取り組む経営の姿勢で」「経営検討会の内容を法人の全職員で取り組める分かりやすい経営方針案に

したい」「LIFEなどで生産性を上げながらも、私たちにできない介護の提供をする」「医師の高齢化も課題に、法人を越えた支援や確保の取り組みを」「リハ職も世代交代の時期。災害支援や社保の活動報告など実体験を伝え継いでいく」「医薬品の供給悪化は発注業務の負担増。共同購入事業など連帯の取り組みを」「院内と院外の看護師交流を進め、県連法人間の待遇格差是正をぜひ検討してほしい」「研修に職員を送り出すことはその心に種を植える作業。事務所に帰ってきたら水をやり、また参加させて肥料をもらう。その繰り返して個性的な花咲く職員を増やしたい」など、それぞれが置かれている立場からの発言があり、悩みの共有や改善策のヒントを得ようとしていました。

最後に大澤会長が分科会での発言用紙も確認しながらまとめを行い、「皆さんの発言を聞いて問題意識の高さに安心しました。明日から実施していけるよう、県連が一致団結して53期を迎えましょう!」と述べられました。

総会に提案された5つの議案は全て全員一致で採択され、次期理事会役員全員(理事48名、監事3名)の信任を得られました。大澤芳清会長と仁田勝大事務局長の再任も確認されました。総会出席者数は、代議員59名(欠席2名、遅刻1名)と理事・監事・事務局員58名の合計117名でした。

☆は新任

第53期県連役員

県連役職	氏名	職種
会長	大澤 芳清	医師
副会長	富永 弘久	医師
	長岡利恵子	看護師
	亀崎千恵美	介護
	仁田 勝大	事務
事務局次長	荒川 龍	事務
常任理事	福岡 幸子	看護師
	藤岡 裕子	事務
	福島 千尋	事務
	中村 健二	事務
	瀬井 宏幸	事務
	前田 竜成	事務
	井上 徹	事務
	黒岩 勝博	事務
	藤崎 正則	事務
	松本 幹雄	事務
理事	☆前田 秀輔	事務

県連役職	氏名	職種
理事	森本 愛	薬剤師
	☆富澤 洪基	医師
	富永 容子	看護師
	衣笠 玲子	看護師
	向井 章雄	事務
	近沢 秀夫	リハ
	吉川 知子	薬剤師
	☆松田 隆馬	介護
	門 倫代	事務
	堀 文哉	事務
	藤末 衛	医師
	滝本 和雄	医師
	☆内村 ひとみ	看護師
	藤堂 圭次	事務
	山本 智文	事務
	村上 未央	介護
	成山 昌子	薬剤師

県連役職	氏名	職種
理事	道上 哲也	医師
	☆金子 ちさと	看護師
	松永 俊一	事務
	後藤由紀子	事務
	岸田 道義	事務
	岸本 和則	事務
	又賀 俊成	ケアマネ
	中尾 智美	薬剤師
	☆鍛冶 絢子	事務
	清瀬 礼子	看護師
	田中 義人	リハ
	☆中村 純子	事務
	佐伯 久雄	事務
	砂川 和之	事務
	岸本 貴士	事務
	中川 智貴	事務
	橋本 銀河	事務
	監事	

go vote!

選挙に行こう



私たちが知事を選ぶ、 みんなの暮らしを変える力になる

県知事選挙
告示▶10/31
投票▶11/17

告発者へのパワハラ等で、現職知事が失職したことによる兵庫県知事選挙ですが、今県民が知事を選びなおす意味は、暮らしと命をまもることに直結します。

コロナ禍では兵庫県でも高齢者が入院を後回しにされるなど、日本の社会保障の脆弱さが露呈しました。コロナによる死亡率が高かった兵庫県は、保健所やベッドを減らし続けてきたからです。医療崩壊を経験した今も、病院の効率化を理由に、病院の統廃合が進められています。医師は足りているとの認識は厚労省も兵庫県知事も同じです。



高校3年生まで通院・入院とも医療費無料が27市町、入院無料は39市町と圧倒的多数の地域で、子ども医療費を充実させてきましたが、県は拡充していません。ジェンダー平等の対応をする部署はたらいまわし。中小企業への支援ではなく、いまだに不急不急の大型開発に予算を使っています。医療崩壊、物価高騰、ジェンダー平等など人権意識の進展があっても変わらないのは、これまでの国追随の政治が継続しているからです。

国は防衛費43兆円を確保するために、社会保障費を削っています。戦争できる国にするため憲法改正を狙っています。今、暮らしと命を優先する知事を選ぶ、憲法と平和を大切にする知事を選ぶ、私たちが兵庫県の知事を選ぶ。私たちが意思表示することは、みんなの暮らしを変えるだけの力を持っています。

暮らしと命をまもる知事を選びに、投票に行きましょう。

おおさわ芳清
ホームページ



生存権 No.178

対応困難な患者に あきらめず支援を続ける ～民医連の看護の理念に 支えられながら～

兵庫民医連 看護委員会

A氏 70歳代 男性
 家族構成：独居 熟年離婚
 娘が一人いるが疎遠
 病名：前立腺肥大
 側弯症（体幹が70-80度に屈曲）
 難治性下腿潰瘍
 介護度：要支援1
 経済状況：年金が入るとすぐに
 使い切ってしまう親族
 に借金を依頼したり
 訪問看護師やケアマネ
 にも借りようとする
 家屋状況：家はゴミ屋敷状態で
 コバエの大群がいる

経過

A氏は前立腺肥大で市内の公立病院に通院していたが、下腿部に潰瘍が出現し同病院の皮膚科で治療を受けていた。しかし難治性潰瘍で頻回な通院が必要となり当院皮膚科に紹介となった。紹介時点で訪問看護の介入はあるものの要支援1のため特別指示書でも毎日訪問が難しい状況であった。また訪問看護はA氏の性格やゴミ屋敷での対応に苦慮し、自費の訪問は金銭的に困難なこともあり、訪問看護と当院が協力して処置の対応をする事になった。

初診時、中待合に入ってもらうため、名前を2回ほど呼んだところ「何回も呼ばんでもわかつとるわ」と立腹。看護師が行う処置の際にも事細かく指示を出し、その指示と違う事をするとう腹され、「何しとんねん、わからんのか、言うとするやろ、頭悪いんちゃうか」など看護師に容赦ない言葉を投げつける状況であった。診療予約をしても、診療終了後に来院するため、看護師も事務職員も時間外に残らざるを得ない状況になっていた。処置の際A氏は、「包帯はこちらから外せ」、「この位置からこの様に包帯を巻け」、「靴下はこちらの足から脱がせて、脱いだ靴下はここに置け」など事細かく指示をした。A氏なりの考えや理屈があるのだろうと推測しできるだけその思いに添うようにした。また

どの看護師が担当してもスムーズに対応ができるようにマニュアルを作成しデモンストレーションを行った。一方で過度な要求には対応が難しいこと、予約時間を守ってもらいたいことを何度も説明し改善を求めた。時には激しい言葉のやり取りになってしまうこともあった。しかし処置の回数を重ねるごとに要求は減り看護師に任せられるようになった。A氏は自身の娘の名前や、熟年離婚したことなど、たわいもない世間話をするようになり、看護師の名札を見て親しみを持って名前を呼ぶようになっていった。3か月ほど根気よく通院され、悪化することなく難治性潰瘍は治癒、再発予防の為の提案もスムーズに受け入れ、再発なく治療は終了となった。

考察

A氏の容赦ない言葉に多くの職員が傷つき、改善が見込めなければ転院してもらおうという選択も考えました。しかし、A氏のような患者の対応ができるのは当院しかないという思いで寄り添ううちに、私たちの言葉に耳を傾けてくれるようになり、互いを尊重し合う関係ができていきました。A氏の尊厳を守るとともに、職員の尊厳を守ると言う課題に直面しましたが、民医連の看護の理念が私たちの支えとなり治癒まで支援することができたと考えます。

県連事務局員着任のお知らせ



9月1日から神戸医療生協より着任しました堀内由紀です。私は、2003年に神戸医療生協本部・経理で入社し、その後医学生担当、看護学生担当を2回、医事課や庶務課も経験させていただきました。1回目の医学生担当の時に民医連の活動や理念を知り、どっぴりと民医連が好きになりました。気が付けば勤続20年！初心を振り返って気持ちを引き締めなおしている今日この頃です。今後は県連の先輩方にいろいろ教えていただきながら、早く仕事も環境にも慣れて、自分のできることを頑張っていこうと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

訂正とお詫び 9・10月号3面「事業所の窓から」にて誤りがございました。訂正し、お詫び申し上げます。

【誤】良元診療所も1991年(平成3年)11月新築竣工しました。
【正】阪神競馬場も1991年(平成3年)11月新築竣工しました。

読者の声

●9・10月号では職場紹介の記事が興味深かったです。事業所では年に何度か健康教室開催を開催しています。

生田調剤薬局 西井直美

●平和行進見ました！皆さん頑張っていました、お疲れ様です。

ペンネーム ピカチュウ

●はじめてハガキを出します。9・10月号に私が勤めているヘルパーステーションひだまりが掲載されていました。私は勤務して15年が過ぎました。古希もとっくに過ぎましたが、自分の健康を保つためとやりがいを持って後何年か頑張ろうと思います。

ヘルパーステーションひだまり 有助辰恵

●いつも法人トピックスを楽しみにしています。子の夏休みも終わり、バタバタな毎日です。それも幸せなのでしょうね。

ペンネーム ハイキュー

●県連ニュースは民医連の日ごろの活動が、この冊子を通してわかりやすく書いてあるので、読みやすいです。9・10月号の6ページの国保44条適用事例を呼んで、収入が少なくして診察が受けられない人に無低診や一部負担金減免などの制度があることを初めて知りました。国保課の窓口担当者が知らなかったり、この制度の案内がなかったというのは信じられない話でした。もっと制度をわかるように案内することや、私たちも学ぶ時間が必要だと強く感じました。

訪問看護ステーション別所 新井美津子

●今回のニュースは宝塚医療生協のことが3ページも載っていてうれしく思いました。そのことを自慢したくて持って帰りました。自宅ゆっくり読んだのも久しぶりです。自慢したくて当分カバンに入れて歩く予定です。10月から郵便料金が値上がり、やめてよ！これ以上値上げは余計郵便ばなれになるよね。

宝塚医療生協 岡本絵美子

●「はるかひまわり絆プロジェクト」酷暑でも元気になれるひまわりですね。

尼崎医療生協病院 安田尚美

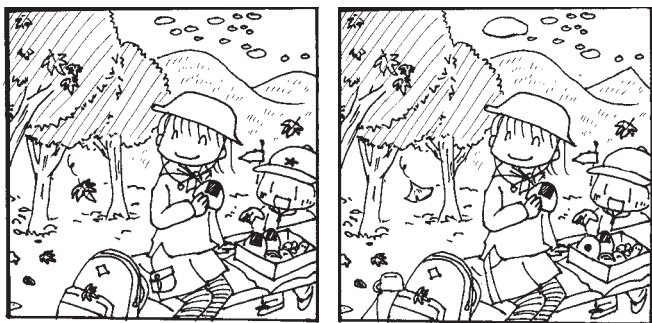
●7月7日から行われた平和行進お疲れさまでした。とても暑い日だったことと思います。いつまでも平和な世界であって欲しいと願うばかりです。

ペンネーム いちじくの実

まちがいさがし 11・12月

正解者のうち5名の方に図書カードを差し上げます。

まちがいは8つ



作・小田 求

【応募のきまり】

〈締切〉2024年12月2日(月) ◇当選者は2025年1・2月号に掲載。

〈応募〉1人1通。はがき又はEメールで。

氏名(投稿はペンネームでも可)、院所名(職場・職種)、OBの方は在職時の法人名を記入の上、下記へ送付して下さい。

〒650-0047 神戸市中央区港島南町5丁目3-7
兵庫民医連ニュース「クイズ」係

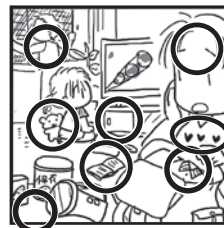
〈Eメール〉kikansi@hyogo-min.com

※余白に、①興味深かった記事と感想、②事業所での取り組み紹介、③近況、④ニュースへのご意見等、お書き下さい。

9・10月号の応募者は14名で全員正解でした。右記の5名の方に図書カードを進呈。

- ①安田 尚美 (尼崎医療生協)
- ②黒瀬 智子 (東神戸病院)
- ③ち こ (ペンネーム)
- ④いちじくの実 (ペンネーム)
- ⑤岡本絵美子 (宝塚医療生協)

9・10月号の答え



法人 topics

姫路医療生活協同組合

訪問看護ステーション別所

小川 綾子さん

理学療法士



仕事でのこだわり

利用者様が望む在宅生活を実現するためには、やはり日々の報告や情報共有が重要と考え、多職種間の連携を意識しています。訪問開始時には目標を確認し、その達成に向けて機能改善・環境設定など実施していきます。その積み重ねによりADLが改善し、利用者様の笑顔が増えることが私のやりがいです。最近はターミナル期に介入することも多く、残存機能の維持・改善や疼痛緩和などにより、その方のQOLを大切にしています。これからも、「住み慣れた地域で、その人らしく最期まで過ごせるよう」に、利用者さまにしっかり寄り添ったりハピリを提供していきます。

連載コーナーです。

法人で“キラッと輝く”職員の、民医連で働き続ける理由や、こだわりを紹介します。

入職したきっかけ

姫路医療生協では早くから在宅医療・介護を重視しており、退院後も安心して在宅生活を送れる環境が整っていることに魅力を感じたからです。現在は、共立病院の病棟勤務を経て訪問看護ステーションで勤務しています。利用者様が少しでも長く安心して在宅生活を過ごせるよう、力になりたいと思っています。

プライベート

2児の育児に奮闘中です。7歳・4歳とまだまだ手ががかかりますが、日々成長を感じています。育児の大先輩でもある利用者様からアドバイスをいただくことも多く勉強になります。休みの日には、家族共通の趣味であるスポーツ観戦に行くことが楽しみのひとつです。将来の夢は、息子がサッカー選手になり、外国でプレーすると意気込んでいるので応援に行くことです。

姫路医療生活協同組合

人生百年時代への取り組み 『生き生き広場』

姫路医療生協 藤木 祐弥

2024年1月より「めざそう健康寿命100歳」をキャッチフレーズに掲げた『生き生き広場』という健康づくりイベントを毎月シリーズで行っています。生き生き広場は、遠方の組合員さんでも参加しやすいよう、3つの会場をオンラインで繋ぎ、フレイルや認知症の予防などにつながる班会メニューを参加者全員で取り組む企画です。講師が参加するメイン会場は3会場をローテーションし、メイン以外の会場をオンラインで繋がります。これまでもオーラルフレイルや終活、腰痛予防など様々なテーマについて専門の職員にお話しをしていただきました。「遠くへ行くより参加しやすい」と組合員さんには好評で、毎回3会場計50名程度の方にご参加いただいています。講義についても「きめ細かい専門的なお話が大変わかりやすく、勉強になった」「100歳まで生きるこ

とは自分とは無縁と思っていたが、日常生活の心がけで健康寿命が延びるのだと学べた」などのご意見をいただいています。

また、後半は各会場オフラインにして交流会を行っています。みんなで歌を歌ったりオリジナル体操をしてみたり、健康に関するお悩みを共有したりと、学びとつながりを深める、そんなイベントになっています。

